



製造業向けAIエージェント『Aconnect』の新機能「技術探索エージェント」および「特許調査エージェント」徹底調査レポート

エグゼクティブサマリー

ストックマーク株式会社は2025年10月30日、製造業向けAIエージェント『Aconnect』の新機能として「技術探索エージェント」および「特許調査エージェント」の提供を開始した。これらの新機能は、従来の情報収集の効率化に留まらず、技術開発の現場で求められる高度な調査業務から、そのまま実務に活用できるレベルのアウトプット生成までをAIが自動で実行する点で画期的である。本機能により、技術者は膨大な調査工数から解放され、本来注力すべき創造的な研究・開発業務に集中することが可能となる。^{[1][2]}

1. 開発の背景と課題認識

1.1 製造業R&Dにおける「調査業務」というボトルネック

グローバルな技術革新のスピードが加速する現代の製造業において、研究開発部門や企画部門は市場動向、競合技術、先行特許、専門論文といった膨大な情報を、迅速かつ網羅的に調査・分析し、開発テーマの選定や課題解決を行うことが求められている。^[1]

しかし、この高度な調査作業には以下のような深刻な課題が存在する：

工数の問題

- 先行技術調査には数日から数週間を要するのが一般的^{[3][4]}
- 特許調査の費用は国内調査で5万円～50万円程度、海外調査では1.5倍～2倍の費用がかかる^[3]
- 一人の技術者が多大な工数を費やす必要があり、本来注力すべき実験・試作・開発といったコア業務を圧迫する^[1]

属人化の問題

- 調査の質がベテラン技術者の経験やノウハウに依存しがち^[1]
- 組織としてのスキル平準化や開発スピードの向上を阻む一因となっている^[1]
- ベテランが退職すると知見が失われるリスク^[5]

調査精度と網羅性の問題

- 人間の目では見落としがちな重要情報がある^[1]
- 膨大な特許情報を一件一件確認するには多くの工数がかかり、確認担当者によって内容や精度にバラつきが生じる^[1]

2. 新機能の詳細

2.1 技術探索エージェント

業務対象

技術課題の解決アプローチ探索^[1]

主な特長

① AIによる課題解決アイデアの提示

技術課題を入力するだけで、AIが論文やニュースから課題解決のアイデアを提示する。若手社員でも課題の分解や解決策の整理が可能になる。^{[6][1]}

② ロジックツリー型UI

解決方向の網羅性を確認しやすいロジックツリー型のUIを採用。技術課題を入力すると、AIが要因仮説、解決策候補、関連文献リストを自動提示する。これにより、若手技術者でも複雑な課題を構造的に理解し、検討の漏れを防ぐことができる。^{[7][1]}

③ プロンプトテンプレート

業務特性に合わせてAIと対話するテンプレートが充実。複雑なプロンプトを入力しなくても、先行技術調査や競合調査、法規制調査、用途探索など業務にあった調査を簡単に実施できる。^{[6][1]}

期待される効果

- 幅広い解決策検討の実現
- 初期調査時間の大幅短縮

- 若手社員でもベテランに近いレベルの調査が可能^[1]

2.2 特許調査エージェント

業務対象

特許調査（先行技術調査、クリアランス調査の一部）^[1]

主な特長

① 自動構成要素抽出

入力した開発予定技術をAIが解析し、調査すべき構成要素を自動抽出する。これにより、調査対象の定義ミスや検討漏れを防ぐことができる。^{[6][1]}

② 根拠付きAI評価

関連特許との一致度をAIが根拠付きで評価。対象特許との一致度、関連度を評価することが可能。^[6]
^[1]

③ 直感的UI

詳細調査すべき特許が直感的にわかるUIを採用。これにより、膨大な特許群から重要なものを効率的に絞り込むことができる。^[1]

期待される効果

- 調査工数の大幅な効率化
- 開発の手戻り防止
- 特許リスクの早期検知^[1]

3. スtockマーク株式会社の技術基盤

3.1 独自LLM開発力

Stockマークは、フルスクラッチで国産LLMを開発できる技術力を持つ。2024年5月には、国内最大級となる**1,000億パラメータの日本語特化LLM「Stockmark-2」**を公開した。多くの企業が海外モデルの微調整やOSS活用にとどまる中、当社はゼロから自らの手でモデルを設計・構築している。^[8]
^[9]

技術的特徴

- 日本語とビジネス領域に最適化された性能は、国産最高クラスの水準^[8]
- ハルシネーションを大幅に抑制^{[9][10]}
- 自社管理下で安全に運用可能^[8]
- 日本語ドキュメント読解性能でGPT-4oを上回る評価を獲得^[9]

3.2 3つの基盤技術

ビジネスデータ基盤

7年間独自に収集したビジネスデータ基盤を保有。国内外約35,000サイトから研究・開発に欠かせない情報を自動で収集・整理。^{[11][12][5]}

ナレッジグラフ技術

言葉の意味を理解するだけでなく、言葉同士のつながりも理解できる「ナレッジグラフ」の構築技術に強みを持つ。これにより、自社技術（シーズ）の特徴や自社固有の表現、業界ごとの専門的な知識・用語、その他複雑な社内外情報を正しく理解し、AIエージェントによる発想の精度や実現性の向上を可能にする。^{[12][13]}

GENIAC採択実績

経済産業省およびNEDOが実施する国内の生成AIの開発力強化を目的としたプロジェクト「GENIAC」の第1期から第3期まで全3回に採択されている。第2期では「ハルシネーションを抑止したドキュメント読解基盤モデルの構築」のテーマで採択され、1,000億パラメータのLLM及びVLMのフルスクラッチ開発を進めてきた。^{[10][14][11]}

3.3 企業規模と資金調達

- 2024年10月：シリーズDラウンドでポラリス・キャピタル・グループより45億円を調達^{[15][16]}
- 累計資金調達額：88億円超^{[16][15]}
- 従業員数：約150名規模^{[17][8]}
- 導入実績：日経225の30%、300社を超える企業^{[17][8]}

4. 製造業における調査業務の課題と解決策の詳細分析

4.1 特許調査の一般的な業務フローと課題

先行技術調査（新規性調査）

- 目的：特許出願の事前に同様の技術が既に存在するかどうかを確認^[3]
- 期間：約2～5週間^[4]
- 費用：国内調査で5万円～50万円程度^{[18][3]}
- 課題：発明の複雑性に応じて調査範囲が拡大し、費用が増加^[3]

侵害予防調査（クリアランス調査、FTO調査）

- 目的：開発途中または販売予定の製品・サービスが他社の特許権を侵害するリスクを事前に把握^{[4][3]}
- 課題：先行技術調査よりも調査範囲が広く、工数が大幅に増加^[4]

無効資料調査

- 目的：特許権侵害で訴えられた際に、第三者が有する特許権は無効だと異議申し立てを行うための証拠調査^[4]
- 課題：学術論文・特許技術に関する文献など、広範囲な調査が必要^[4]

4.2 従来の調査業務における問題点

①情報収集の非効率性

- 膨大な特許文献を一件一件人の目で読み込む必要がある^[19]
- 毎週配信される公開特許情報の確認に多くの工数がかかる^[1]
- 複数の技術分野にまたがる場合、調査範囲が拡大する^[3]

②調査品質のばらつき

- 確認担当者によって内容や精度にバラつきが生じる^[1]
- 属人的な業務となり、負荷分散が困難^[1]
- 調査の抜け漏れリスクが存在^[1]

③コア業務への影響

- 調査業務に追われ、実験・試作・開発といったコア業務に集中できない^[1]

- 本来注力すべき創造的な研究・開発業務が圧迫される^[1]

④技術継承の困難さ

- ベテラン技術者の経験やノウハウに依存^[1]
- 退職に伴う知見の喪失^[5]
- 若手への技術・技能継承が困難^[20]

4.3 新機能による課題解決のメカニズム

調査工数の削減

- 従来数日から数週間を要していた調査業務を短縮^[1]
- AIによる自動抽出・分析により、初期調査時間を大幅に削減^[1]
- 特許調査時間を80%削減するKPIを設定している事例も^[21]

アウトプット品質の向上

- AIによる網羅的な調査で、人間の目では見落としがちな重要情報もカバー^[1]
- 検討の質を高める^[1]
- 調査の抜け漏れリスクを低減^[1]

属人化からの脱却

- AIエージェントが高度な調査プロセスをサポート^[1]
- 若手技術者でもベテランに近いレベルの調査が可能^[1]
- 組織全体の技術力の底上げに貢献^[1]

技術開発サイクルの高速化

- 調査フェーズが短縮されることで、研究開発全体のリードタイムが短縮^[1]
- 市場へのスピーディな製品投入が期待できる^[1]

5. 導入事例と評価

5.1 株式会社IHIプラント ライフサイクルビジネスセンター プロセス設計部 梶倉翔氏のコメント

「特許関連性調査は、事業を行う上で重要な業務である一方、技術者にとって非常に負担の大きい作業でもあります。毎週配信される公開特許情報を一件一件確認するには多くの工数がかかり、確認担当者によって内容や精度にバラつきが生じる点にも課題を感じていました」^[1]

「今回、新しいサービスを事前にトライアル利用させていただき、確認プロセスの自動化や、自社事業との関連性を網羅的かつ高精度で判定できる点が非常に魅力的でした。確認作業の自動化は、作業時間の削減だけでなく、これまで属人的だった業務を誰でも行えるようにすることで負荷分散にもつながり、また、網羅性と精度の向上によって調査の抜け漏れリスクも低減できる可能性を感じています」^[1]

「今後、本格導入されれば、従来の調査業務にかかる負担が大幅に軽減されると大いに期待しています。また、将来的にはより高度な分析機能の追加など、さらなる進化にも期待しています。技術者の知財活動を支えるプラットフォームとして、リリースを心から応援しています」^[1]

5.2 その他の導入実績

Aconnectは製造業を中心に幅広く導入されており、以下のような企業での活用事例が報告されている：

- 神田外語大学：2025年度より全学導入^{[22][23]}
- 株式会社スズキ：DXの一環として導入^[24]
- 株式会社セブン銀行：新たなサービス創出の情報源として活用^[25]
- SCSK株式会社、富士通ラーニングメディア、TIS株式会社、ソフトバンク株式会社など多数^[26]

6. 競合サービスとの比較

6.1 特許調査支援ツールの競合状況

PatentSQUARE（パナソニック）

- 1992年誕生、30年近い歴史を持つ特許調査支援サービス^[27]
- 特許登録件数上位100社でシェアNo. 1^[27]

- AI検索機能、AI自動分類機能を搭載^[27]
- 現場技術者が使いやすいUIを提供^[27]

Patsnap (PatSnap (UK) Limited)

- 直感的に操作しやすいUI^[28]
- 各国の特許を横断的に調査^[28]
- AIを利用した調査も可能（英語入力必須）^[28]
- 約10万円/月と金額は高い^[28]

Patentfield (Patentfield株式会社)

- 簡易検索・セマンティック検索・AIセマンティック検索等の検索手段を備える^[28]
- 無料プランもあり、月額課金形式で月14,000円～^[28]

ChatTokkyo / Tokkyo. Ai

- 特許×AIエージェントの特化型サービス^{[29][30]}
- 特許明細書の自動作成機能^[30]
- AI検索で文章入力だけで関連文献を瞬時に検索^[30]
- 社内技術文書の要約・補完を自動実行^[30]

6.2 技術探索支援ツールの競合状況

Patsnap Eureka

- 研究開発や知財戦略を支援するAIツール^{[31][32]}
- 技術動向調査、アイデア創出、実現性評価までを包括的にサポート^[31]
- 専門分野特化型AIエージェント^[32]

AKCELI (ナインシグマ)

- AIを活用して技術アセットや研究テーマの価値を発見^[33]
- 最適な市場へと導く事業化支援サービス^[33]

IDX × AI孔明™ × Tokkyo. Ai (AIデータ株式会社)

- 製造業R&D・研究所向けオールインワンプラットフォーム^[34]
- 知財と研究データの統合管理を実現^[34]

6.3 Aconnect新機能の差別化ポイント

①製造業への特化

- 製造業の技術者が行う専門業務に特化して設計^[1]
- 製造業に特化した情報ソース（約35,000サイト）^[5]
- 製造業のR&Dを起点とした展開^[8]

②実務で使えるアウトプット生成

- 従来の情報収集の効率化に留まらず、そのまま実務に活用できるレベルのアウトプット生成^[1]
- ChatGPTに代表される汎用的なチャットUIでは対応が困難な、専門業務特有の複雑なプロセスに対応したUI^[1]

③独自LLM基盤

- 1,000億パラメータの日本語特化LLM「Stockmark-2」を自社開発^{[9][8]}
- ハルシネーションを大幅に抑制^[9]
- ビジネスデータ基盤とナレッジグラフ技術を組み合わせた高度な分析^{[13][12]}

④エンタープライズ企業への実績

- 日経225の30%、300社を超える企業での導入実績^{[17][8]}
- 大手製造業を中心に全社的な導入が進んでいる^[5]

7. 市場の反応と第三者評価

7.1 プレスリリースへの反応

2025年10月30日のプレスリリースは、以下の主要メディアで報道された：

- PR TIMES^[1]
- 毎日新聞^[35]

- Livedoor ニュース^[2]
- 日本経済新聞 (NIKKEI Compass) ^[36]
- Mapion^[37]
- IPTOPS^{[38][39]}

7.2 業界専門家の評価

特許・知財業界の専門家からは、AIエージェントによる特許業務の変革について以下のような評価が寄せられている：

効率化の評価

「AIエージェントにより、膨大な資料と複雑な手続きに追われる知財部の負担を軽くする手段として注目されている」^[19]

将来性の評価

「従来の手作業による検索や調査に依存しているだけでは、すでにAIを取り入れ始めた競合に後れを取ってしまう」^[19]

「知財部門は、AIエージェントを活用することで『企業戦略を支える中核部門』へと進化する可能性を秘ている」^{[40][19]}

8. 今後のトレンドと将来展望

8.1 製造業におけるAIエージェントのトレンド

2025年の最大トレンド：AIエージェントの実用化

2025年の最大のトレンドは「AIエージェント」の実用化である。AIエージェントは単なる自動化ツールではなく、目標達成のために自ら計画を立て、情報収集し、実行する自律型システムである。^[41]

マルチエージェントによる協調自動化

複数のAIエージェントが役割分担しながら協調して業務を遂行するマルチエージェントシステムの実用化が進んでいる。営業エージェントと在庫管理エージェントが連携し、商品提案から在庫確保、請求書発行までを一気通貫で処理するような高度な自動化が可能になる。^{[42][41]}

業界の境界を越えるAIエージェント

今後は業界の壁を越えてシームレスに機能するクロスドメインエージェントが台頭すると予測されている。製造業のサプライチェーン最適化エージェントが、物流業界の配送最適化エージェント、小売業界の需要予測エージェントと動的に連携し、業界を横断した最適化を実現する未来が見えてきている。^[43]

8.2 Aconnectの将来展望

ストックマークは、今後の展望として以下を掲げている：

AIが技術者と「伴走」する未来へ

『Aconnect』は、製造業に携わる皆さまの専門業務を強力にサポートするサービスとして、今後もAIエージェントをはじめとした機能拡張を継続していく。^[41]

一気通貫の伴走

将来的には、AIが技術開発～製品の上市に至るまでのプロセス全体に対して一気通貫で伴走し、製品開発全体の効率化とリードタイムの大幅短縮を実現するサービスへと進化させていく計画。^[41]

EKP構想の実現

『EKP (Enterprise Knowledge Platform) 』構想を提唱しており、企業内外のあらゆるナレッジ（情報・知見・知恵）を統合・活用する「生成AI時代の経営基幹プラットフォーム」を目指している。Aconnectは、このEKP構想を実現する中核プロダクトとして位置づけられている。^[44]

8.3 特許調査・知財業務の自動化の未来

AIエージェント時代の知財部

AIエージェントと特許の融合は、まだ黎明期にある。しかし、従来の手作業による検索や調査に依存しているだけでは、すでにAIを取り入れ始めた競合に後れを取ってしまう。^[19]

完全自律化への道筋

2025年以降は活用レベル3（AI監督下での自動実行）から活用レベル4（完全自動化）への移行が本格化し、人間の介入を最小限に抑えた業務運営が実現する見込み。^[41]

ただし、AIエージェントがこの方向に向かっていることは間違いないが、まだ完全には到達していない。真に自律的なエージェントの実現には、アルゴリズムの改善だけでなく、文脈に基づく推論とエッジケースのテストにおいて、大きな飛躍が必要。^[45]

人間とAIの協働モデル

初期のAIエージェントは人間のワークフローを模倣するように設計されていたが、今後は人間の思考・行動パターンに縛られない、環境に最適化された新たな協働モデルが誕生する。環境適応型エージェントは、人間の業務プロセスを単に自動化するのではなく、AIの特性を最大限活かした全く新しいワークフローを創造し、人間とAIの役割分担そのものを再定義していく。^[43]

9. 導入効果の定量的評価

9.1 期待される定量効果

研究者・技術者への効果

- 調査工数の効率化：従来、数日から数週間を要していた調査業務を短縮^[1]
- 調査時間80%削減のKPI設定事例あり^[21]
- アウトプット品質向上：AIによる網羅的な調査で、人間の目では見落としがちな重要情報もカバー^[1]
- コア業務への集中：調査から解放されることで、より付加価値の高い実験や試作、創造的な思索に時間を割くことが可能^[1]

マネジメント・組織への効果

- ベテラン依存からの脱却：若手技術者でもベテランに近いレベルの調査が可能になり、組織全体の技術力の底上げに貢献^[1]
- 技術開発サイクル高速化：調査フェーズが短縮されることで、研究開発全体のリードタイムが短縮され、市場へのスピーディな製品投入が期待できる^[1]

コスト削減効果

- 特許調査費用の削減：外部委託していた調査業務を内製化することで、調査あたり5万円～50万円程度のコスト削減が期待できる^{[18][3]}
- 工数削減による人件費効果：調査業務に費やしていた技術者の時間をコア業務に振り向けることで、生産性向上が期待できる

9.2 他社のAI活用事例から見る効果

製造業における生成AI活用の他社事例からは、以下のような効果が報告されている：

- 作業時間の40～60%効率化（Solve Intelligence Patent Copilot導入企業）^[46]
- 計画外停止時間を最大80%削減（品質管理・予測保全エージェント）^[43]
- 設計から試作までの時間を50%短縮（設計支援エージェント）^[43]
- 在庫コストを30%削減しながら欠品率も50%低減（サプライチェーン管理エージェント）^[43]
- 年間186,000時間の削減や見逃し率ゼロ化^[47]

10. 導入における課題と対策

10.1 技術的課題

ハルシネーション（幻覚）の問題

AIが誤った情報を生成するリスクは依然として存在する。ストックマークは独自LLM開発でハルシネーションを大幅に抑制しているが、重要な意思決定においては人間による最終確認が不可欠である。

^[9]

データ品質の依存性

AIの性能は学習データの質に大きく依存する。製造業特化の情報ソース約35,000サイトからの情報収集により高品質なデータ基盤を構築しているが、継続的なデータ品質の維持・向上が課題となる。^[5]

10.2 組織的課題

AIリテラシーの向上

社内リテラシーの低さと情報共有不足が最大のボトルネックである。導入成功には、組織全体でのAI理解と活用スキルの向上が不可欠。^[48]

業務プロセスの再設計

AIエージェントの導入は、単なるツールの置き換えではなく、業務プロセス全体の再設計を必要とする場合がある。既存の業務フローとAI活用の最適なバランスを見出すことが重要。

10.3 スtockマークのサポート体制

Aconnectでは、以下のサポート体制を整えている：

- 専任スタッフによる導入支援^[5]
- 導入目的に応じた最適な支援^[5]
- 利用が増えるたびに説明会を開催^[24]
- 機能・人数無制限の無料トライアル提供^[5]

11. 結論

11.1 新機能の意義

製造業向けAIエージェント『Aconnect』の新機能「技術探索エージェント」および「特許調査エージェント」は、製造業R&Dにおける以下の3つの重要な課題を解決する可能性を秘めている：

1. **調査業務の工数削減**：従来数日から数週間を要していた調査業務を大幅に短縮
2. **属人化の解消**：若手技術者でもベテランに近いレベルの調査を可能にし、組織全体の技術力を底上げ
3. **技術開発サイクルの高速化**：調査フェーズの短縮により、市場へのスピーディな製品投入を実現

11.2 競争優位性

Aconnectの競争優位性は以下の点にある：

- 製造業に特化した設計と情報ソース
- 1,000億パラメータの独自LLM基盤
- 実務で使えるアウトプット生成
- 日経225の30%、300社超の導入実績
- ナレッジグラフ技術による高度な分析

11.3 今後の展望と提言

短期的展望（1～2年）

- 導入企業の増加と成功事例の蓄積

- 機能の継続的改善とアップデート
- 他の製造業特化AIエージェント機能の追加

中期的展望（3～5年）

- EKP構想の実現に向けた進化
- マルチエージェント連携の実装
- 技術開発～製品上市までの一気通貫サポート

長期的展望（5年以上）

- 業界を超えたクロスドメイン連携
- 完全自律型エージェントへの進化
- グローバル市場への展開

11.4 企業への提言

製造業企業がAIエージェントを活用した知財・研究開発業務の変革を成功させるためには、以下の点が重要である：

1. **スモールスタート**：小規模なパイロットプロジェクトから始め、成功事例を積み上げる
2. **人材育成**：AIリテラシーの向上と、AIと協働できる人材の育成
3. **業務プロセスの再設計**：AIの特性を活かした新しいワークフローの構築
4. **セキュリティとガバナンス**：企業固有データの取り扱いに関する適切な管理体制の構築
5. **継続的改善**：AIの提案を検証し、フィードバックを重ねることで精度を向上

Aconnectの新機能は、製造業における専門業務の自動化とAI活用の新たな地平を切り開くものであり、今後の発展が大いに期待される。

出典一覧

本レポートは、プレスリリース、企業ウェブサイト、業界専門誌、学術論文、ニュース記事など80以上の情報源から徹底的に調査した情報に基づいて作成されている。

*
**

1. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000314.000024407.html>
2. https://news.livedoor.com/pr_topics/detail/29890246/
3. <https://media.emuniinc.jp/2025/01/10/ai-patent-search-cost/>
4. <https://crowdworks.jp/times/know-how/24926/>
5. <https://aconnect.stockmark.co.jp>
6. <https://aconnect.stockmark.co.jp/features/>
7. <https://anews-stockmark.zendesk.com/hc/ja/articles/51765979956889-Aconnectエージェント-技術探索エージェント>
8. <https://herp.careers/v1/stockmark/78KZXbyl-kYt>
9. https://aismiley.co.jp/ai_news/stockmark-2-v1-100b/
10. <https://stockmark-tech.hatenablog.com/entry/2025/03/06/114203>
11. <https://stockmark.co.jp/news/20250715>
12. <https://stockmark.co.jp/news/20250307>
13. <https://sat.stockmark.co.jp>
14. <https://stockmark.co.jp/news/20250729>
15. <https://stockmark.co.jp/news/20241021>
16. <https://media-innovation.jp/article/2024/10/21/141845.html>
17. <https://herp.careers/v1/stockmark>
18. <https://nihon-ir.jp/service/patentsearch-solution/main/patent-search-price/>
19. https://note.com/tokkyo_ai/n/ne05bd315958d
20. https://www.dcs.co.jp/knowledge/report/manufacture_metal/

21. <https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/b7101fa0dd19094d3825.pdf>
22. https://aismiley.co.jp/ai_news/kanda-stockmark-ai/
23. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000297.000024407.html>
24. <https://aconnect.stockmark.co.jp/cases/suzuki/>
25. <https://aconnect.stockmark.co.jp/cases/sevenbank/>
26. [https://aconnect.stockmark.co.jp/cases/?categories\[\]=9-2-9-](https://aconnect.stockmark.co.jp/cases/?categories[]=9-2-9-)
27. <https://www.panasonic.com/jp/business/its/patentsquare.html>
28. <https://note.com/arisadaman/n/n24360aa71aa3>
29. https://note.com/tokkyo_ai/n/n5aelcada4caf
30. <https://www.tokkyo.ai/patent/ai-agent/>
31. <https://idea-triz.com/column/patsnap-eureka-introduction>
32. <https://patcore.com/product/patsnap-eureka>
33. <https://www.ninesigma.com/jp/akceli/>
34. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000496.000040956.html>
35. <https://mainichi.jp/articles/20251030/pr2/00m/020/354000c>
36. https://www.nikkei.com/compass/content/PRTKDB000000314_000024407/preview
37. <https://www.mapion.co.jp/news/release/000000314.000024407/>
38. <https://iptops.com/news/1123082>
39. <https://iptops.com/news/1123055>
40. https://note.com/ip_design/n/nd13fd85dfd7d
41. <https://isjapan.co.jp/gyoumu-kouritsu/>
42. <https://www.salesforce.com/jp/news/stories/ai-agents-trends-2025/>
43. https://zenn.dev/taku_sid/articles/20250402_industry_ai_agents

44. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000276.000024407.html>
45. <https://www.ibm.com/jp-ja/think/insights/ai-agents-2025-expectations-vs-reality>
46. <https://media.emuniinc.jp/2025/05/24/international-patent-search/>
47. <https://exawizards.com/column/article/ai/ai-cases-of-manufacturing/>
48. <https://www.macromill.com/service/knowledge-blog/marketer-column-022/>
49. <https://www.sotatek.com/jp/blogs/2025-top-ai-agent-trends/>
50. https://www.cisco.com/c/ja_jp/td/docs/cloud-systems-management/network-automation-and-management/dna-center/2-3-7/user_guide/b_cisco_dna_center_ug_2_3_7.pdf
51. <https://www.expertise.ai/ja/blog/ai-agent-examples>
52. <https://experienceleague.adobe.com/ja/docs/marketo/using/product-docs/reporting/revenue-cycle-analytics/opportunity-influence-analyzer/export-opportunity-influence-analyzer-data>
53. https://aismiley.co.jp/ai_news/ai-agent-chaosmap-2025/
54. <https://aconnect.stockmark.co.jp/coevo/saf-company-list/>
55. https://ai-market.jp/technology/llm-patent_search/
56. <https://aconnect.stockmark.co.jp/coevo/fusion-energy/>
57. https://www.dir.co.jp/report/column/20250821_012308.html
58. https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/keiei_meigara/dxstockreport-202401.pdf
59. https://www.jst.go.jp/sip/dl/k07/booklet_2017_A4.pdf
60. https://japio.or.jp/00yearbook/files/2025book/25_4_04.pdf
61. <https://www.tokyo-cci.or.jp/about/honbu2017/file/vision.pdf>
62. https://zenn.dev/p_hunter/scraps/7917c993e22442
63. <https://blog.scuti.jp/frontline-and-future-prospects-of-generative-ai-in-manufacturing/>
64. https://doda.jp/DodaFront/View/CompanySearch/j_ag_30/
65. <https://stockmark.co.jp/news/20251030>

66. <https://stockmark.co.jp>
67. <https://prtimes.jp/topics/keywords/特化AI>
68. https://note.com/hiro_seki/n/n399ff853f4a8
69. <https://aconnect.stockmark.co.jp/astrategy/>
70. <https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/90712>
71. <https://aconnect.stockmark.co.jp/cases/>
72. <https://aconnect.stockmark.co.jp/seminar/20251007/>
73. <https://aconnect.stockmark.co.jp/price/>
74. <https://news.livedoor.com/article/detail/29895614/>
75. <https://youtrust.jp/studio/articles/stockmark>
76. <https://aconnect.stockmark.co.jp/coevo/eliminate-development-research-waste/>
77. <https://www.headwaters.co.jp/news/2025/>
78. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000307.000024407.html>
79. <https://portal.research.global.fujitsu.com/202407/kozuchi/>
80. https://note.com/starup_ogata/n/nce9f5fdbb674
81. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000274.000024407.html>
82. <https://www.shopowner-support.net/hr/personnel-recruitment/manufacturing-industry/patent-search-system/>
83. <https://www.jpo.go.jp/resources/report/sonota/service/document/index/2023hokokusho.pdf>
84. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/74/7/74_236/_pdf/-char/ja
85. <https://www.members.co.jp/column/20240927-manufacturing-ai>
86. <https://stockmark.co.jp/news/20250129>
87. <https://hr.tokkyo-lab.com/column/pinfosb/tokkyobunseki-tool>

88. <https://www.wantedly.com/companies/stockmark>
89. <https://stockmark.co.jp/company>
90. <https://stockmark.co.jp/news/250701>
91. <https://stockmark.co.jp/news/20250925>
92. <https://idea-triz.com/patsnap>
93. <https://growth-100-oku.smrj.go.jp/companies/pdf/00299-00.pdf>
94. <http://www.cocn.jp/forum/59e57bb012164a5eb985c2f157fb88f3a61013fd.pdf>
95. <https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv/preprint/download/1571/4043>
96. <https://logic-meister.com/pages/66/>
97. <https://www.mckinsey.com/jp/our-insights/a-new-era-for-industrial-rnd-in-japan-jpn>
98. <https://idea-triz.com/column/method-randd-6>
99. https://www.rd.ntt/research/JN202311_23718.html
100. <https://www.science-t.com/seminar/K250425.html>
101. https://x.com/Stockmark_japan/status/1983715478217588800
102. https://iba.kwansei.ac.jp/iba/assets/pdf/journal/studies_in_BandA_2010_p215-226.pdf
103. <https://concept-design.net/ストックマーク株式会社 | 資金調達45億円/>
104. <https://thebridge.jp/2024/10/stockmark-series-d-round-funding>
105. <https://www.itreview.jp/products/aconnect>
106. <https://note.com/stockmark/m/m66c49947c70b>
107. <https://aconnect.stockmark.co.jp/coevo/information-gathering-tool/>
108. <https://lapras.com/companies/1256>
109. <https://herp.careers/careers/companies/stockmark/jobs/w7ulcIwrlRzq?search=HRTech>
110. <https://note.com/shohei6117/n/nfb60f0ecb8d9>

111. <https://www.qualtrics.com/support/jp/digital-assist/digital-assist-heatmaps/>
112. <https://www.qualtrics.com/support/jp/survey-platform/survey-module/editing-questions/question-types-guide/specialty-questions/heat-map/>
113. <https://aconnect.stockmark.co.jp/scene/ip-strategy/>
114. https://panasonic.co.jp/ew/pewnw/ns/mno/pdf/pn91000_exp.pdf
115. <https://www.servicenow.com/docs/ja-JP/bundle/yokohama-governance-risk-compliance/page/product/grc-risk/task/configure-risk-heatmap.html>